

あおぞらだより

第 158 号 (発行/平成 28 年 7 月)

誕生日会/七夕

貧困

江戸川病院院長 新村ヨシオ



七夕の笹/E 棟

貧困は貧しくて生活に困ることや発想が貧困だと内容が乏しいことを言う。日本では昭和 39 年のオリンピック景気以降、経済発展を遂げ、好景気に湧いて貧困という言葉はあまり耳にしなかった。世界を巻き込んだ石油ショック、戦争、金融危機など幾多の困難を乗り越えてきたのに、最近ほど貧困に関する報道が多いのに驚くようになってきた。バブル経済の崩壊によって国内総生産も減少し、国民所得も漸減してきたので、消費も冷え込んできたからとされている。価格破壊も起こり、企業収入も減少し

ていくなかで、リストラと称して解雇が始まり、非正規労働者が増加した。人件費削減で個人所得は更に低下し、消費が伸びず経済の悪の連鎖の渦に巻き込まれているのが現在である。その結果、未来の日本を担う学童が教育を受けられない現実の報道も多く、将来に不安を感じさせる。

貧困国の定義は分からないが、発展途上国の括りに入れられない国のことと思っていた。それらの国で戦争や疫病が発生すると一斉に報道されるが、貧困が

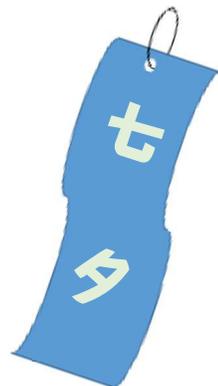
故の事象と言わんばかりの説明で、対岸の火事のように話題は終結する。エボラ出血熱の事などで分かると思うが、感染が終息すれば、それ以降の支援の様子は全く知らされない。先進国と言われる国はヨーロッパや環太平洋経済圏に多いので、それぞれの自国に影響が及ばなければ関心は示さないように見える。貧困国を救済するには、今の国際協力では困難なのであろう。資源があって、必要とする国から交渉の価値を認められれば個々に貿易して利潤を得られ、いずれは国が裕福になれる。資源がある国は幸運である。

貧困から逃れるには社会的成熟が条件のように思われる。資本主義経済・議会制民主主義・三権分立が確立している国は民主的政治が可能である。世界的に観ると秩序が保たれているのは法治国家であり、治安が安定していることが発展の条件である。しかし、皮肉なもので発展しても平等に富を得られない。その国の基幹産業に携われる幸運がないと恩恵に預かれない。そのように考えると繁栄している国にしても全ての人が裕福になれないのである。それに健康であることも大切な条件となる。貧困になるのは、政治や経済の不安定さが最も大きな要素と思うのだが、世界が流動的なので予測が立たない。イギリスだってEUからの脱退が実現すれば、先進国での最貧困になるかもしれない。

貧困は社会の陰の部分なので、これまで日本では光が当たらず無関心であったと思う。世界も驚嘆する経済発展した国だったので、大きな話題にはならなかった。しかし、医療人にとっては病者を対象として仕事してきたので、この数年で貧者は増えてきたように感じていた。それに経済的困窮でうつ状態になる人も多くなっていた。この数年間は年間自殺者が3万人を切ったと国は手柄を述べているが、実際は3万人に近い2万人台であって、自慢できるものではない。その原因は経済的理由が一番多く、病気を苦にして自殺すると報告されている。医療費も捻出できなくて、通院できず、室内で倒れていた人もいる。自己破産の増加、生活保護世帯も100万件を超えたとの報道もあり、日本は大きな転換期に差し掛かっている。世界でも優秀な官僚や政府をもってしても、現在の不景気を打開する方策を見つけられないのか。与党も野党も経済政策に具体的政策は持ち合わせていない。まさかのマイナス金利を実施しても何の反応もない。さて、国民の審判はいかに。

誕生日会

6月25日桃源の誕生日会が行われました。今月の誕生日会は「エガケン」のお二人が歌とギターの生演奏を聴かせてくれました。参加された患者様もおふたりの歌に合わせて体を揺らしたり、一緒に歌ったり、楽しい時間になりました。



今年も各病棟で七夕の笹飾りが行われました。短冊に思い思いの願い事を書いて笹に結びつけました。

